

令和8年

2月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

（畜産）東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0897) 57-9122

【天気予報及び概況】

低気圧の影響を受けにくいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量 (mm)
2025 年	4.4	8.0	1.0	28.0
2024 年	7.4	11.2	3.7	100.5
2023 年	6.1	10.1	2.3	41.0
1991～2020 年	6.2	10.0	2.6	56.2

※気温については、1ヶ月の平均値（気象庁）

【作物】

1 麦（生育中期の管理）

(1) 中間追肥

生育が遅れている圃場は、分げつと生育促進のため2月上旬頃までに中間追肥をしてください。施肥量は、化成444を15kg/10a目安にしますが、この時期の追肥は倒伏の危険性が高まりますので、葉色や生育状況により加減してください。

(2) 土入れと麦踏み（倒伏防止、分げつ、根張りの促進効果）

本葉3～4葉期頃から茎立ち期までの間に、土壌が乾燥している時に15～20日間隔で3回程度実施してください。

土壌が過湿の場合、麦踏みにより土壌が固結したり、茎葉の損傷が大きくなることがありますので、必ず土壌乾燥時に行ってください。

麦踏みの後に土入れをすると、折れた茎葉を覆土し、生育障害を招く恐れがあるので、必ず土入れ作業後に麦踏みを行うようにしてください。

(3) 排水溝の点検

排水溝の点検・作溝を行い、雨水の排出促進に努めて、湿害を防止してください。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水を排出してください。

(4) 雑草防除

○麦生育期の処理

農薬名	適用雑草名	使用時期	10a当たり使用量		使用回数
			薬量	希釈水量	
ハーモニーDF	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～節間伸長前	5～10g	50～1000	1回

使用に際しては、飛散の少ない専用ノズルを使用するなど、隣接作物に薬液がかからないように散布してください。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行ってください。

2 水稻（栽培計画の検討）

気象条件や土壌条件に適した品種を選定し、極早生から晩生品種の組み合わせによる労力の分散、異常気象（極端な高温、降雨など）に対応する栽培管理の徹底、農業機械の効率利用などを考慮し、高品質米の安定生産に努めてください。 <松本>

【野菜】

1 さといも（圃場準備）

芋の肥大は土壌が膨軟で深く、適湿を保つ圃場づくりが重要です。生育初期の地温を高めるためには、通気の良い土壌にすることが大切です。植えつけ前の耕運で土壌の碎土・乾燥が重要です。春季の降雨対策として、畦畔周辺の排水溝設置やパワーディスク耕運を行ってください。 <徳永>

2 やまのいも

(1) 圃場準備

植付けを2月中旬頃から始める場合は、早めの圃場準備をしてください。降雨後の土壌水分が多い状態で畝立て作業等を行うと、土を練り、酸素欠乏による生育不良や芋の形状悪化の原因となります。天気を確認しながら、圃場条件が最良のときに作業を行ってください。なお、完熟堆肥の施用量が少ない場合は、アヅミンを40kg/10a施用してください。

(2) 種芋準備

無病で形状の乱れがない優良系統の種芋を準備してください。蔓首を切り除き、1個切片芋が50g程度になるように切断してください。

○種芋消毒

病害名	農薬名	使用方法及び注意事項
青かび病	ベルコートフロアブル	種芋切断前、200倍で10分間浸漬する（種芋の表皮を消毒）
	ベンレートT水和剤20	種芋切断後、種芋重量の0.3～0.5%粉衣（消石灰と混和して粉衣）

(3) 害虫防除

コガネムシ類幼虫対策には、植付前にダイアジノンSLゾル25倍(液量1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和してください。

ネキリムシ類対策には、植付時にフォース粒剤6kg/10aを植溝に土壌混和してください。 <三谷>

3 タマネギ（施肥）

2月中旬と3月下旬に高度化成444または、NK化成特11号を40kg/10a施用してください。ただし早生系では、2月の追肥を最終としてください。

施肥の際に土壌が乾燥していると肥効が十分発揮されないので、乾燥が続く場合は、畝間灌水を行った後に実施してください。

4 ソラマメ（整枝・誘引）

冬期の管理は、側枝の制限と整枝・誘引が重要です。整枝作業は晴天日の日中に行い、側枝4～6本を残すことを目標に、細く徒長した枝や遅れて発生した短い枝を順次除去してください。

また、支柱を設置し誘引すると、茎や莢に光が良く当たるようになり着果促進と品質向上が期待できます。 <徳永>

【果樹】

1 かんきつ類

(1) 樹勢回復と土づくり

収穫後は、窒素を主体とした液肥の積極的な葉面散布により樹勢の回復と落葉防止を図るほか、石灰質資材の投入による土壌酸度の矯正や堆肥投入による土づくりに取り組みましょう。

(2) せん定

昨年産の着果が多く、結果母枝が少ない園は、せん定の時期は遅めで、立ち枝等の間引き程度にとどめ、着花確保に努めてください。9月以降に発生した秋枝は、充実不足で着花の可能性が低いいため、基本的には除去しますが、葉数が少ない樹や不作が予想される樹は、除去せずに残します。

一方、着花量が多いと予想される樹は、発芽までにせん定して春枝（発育枝）を多く発生させるように努めてください。

(3) 病虫害防除

冬期マシン油乳剤の散布は、ミカンハダニやカイガラムシ類に高い防除効果が期待できます。1月までに散布できなかった園では、2月下旬から3月中旬に散布してください（但し、厳寒日は散布しない、冬期に2度散布しない）。散布濃度は95%製剤45倍（樹勢が弱い樹では97%製剤60倍が適当）ですが、商品により登録内容が異なるので使用時に農薬ラベル表示を必ず確認してください。

かいよう病に弱い品種（甘平等）では、せん定時に罹病した枝葉を除去し園外へ搬出して処理します。また、発芽前にICボルドー66D、マシン油乳剤をそれぞれ散布する場合は、2週間以上空けてください。 <三谷>

【花き・花木】

1 シキミの土壌改良

苦土石灰を60kg/10a施用し、酸性土壌を改良してください。

2 球根養成栽培の追肥

アネモネは組合化成2号を50kg/10a、ラナンキュラスは高度化成肥料14-14-14を1回目に追肥しなかった株間に2回目の追肥を25kg/10a、2月下旬に施肥してください。施肥量は葉色に配慮して加減してください。 <佐津間>

【畜産】

寒冷対策を行うこの時期は、畜舎でも暖房・保温器具を使用するため、火災事故発生の危険性が高まります。火災から大切な家畜・畜舎を守るため、点検を行い予防に努めましょう。

1 暖房器具等の取り扱い

暖房器具等の周囲に乾草、飼料袋、木材等の燃えやすいものを置かないようにしましょう。また、家畜に保温器具を用いる場合は、家畜や敷料等に触れないよう十分な高さを保ち、しっかりと固定しましょう。

2 電気設備の漏電点検

- 畜舎内のコンセントやスイッチ類のホコリの有無を確認し、ホコリが溜まらないように日頃から清掃、整理整頓を心がけましょう。
- 電気設備やコンセント周りに、雨や結露による水滴が付着していないか確認し、必要に応じ屋根の補修や畜舎内の換気に努めましょう。
- 電気配線が扉や資機材に挟まれていたり、ネズミ等にかじられたりして露出していないか確認し、不具合があれば専門業者に修繕を依頼しましょう。
- たこ足配線により電気使用容量の超過、コンセント・スイッチ類の接触不良やプラグの劣化も異常加熱の原因となります。必要に応じ、電気容量の変更やコンセント増設を検討しましょう。
- 万が一のため、消火器具等の設置を検討しましょう。

<織田>